

# 自由民権運動

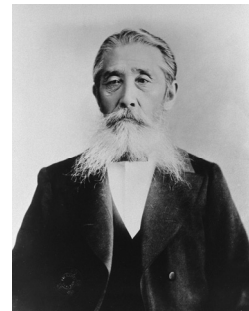
## (1) 新政府への不満

- ① 農民の不満…地租の負担が江戸時代とあまり変わらなかったため、大規模な農民の一揆がおこり1877年には地租は\_\_\_\_\_ %から\_\_\_\_\_ %に引き下げられた。
- ② 士族の不満…士族は四民平等などによってしだいに特権を奪われ、これまで支給されていた俸禄も打ち切られ政府に対する不満が高まった。また、政府の要職が\_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_など一部の藩の出身者に占められている\_\_\_\_\_政府にも不満を持ち、士族は各地で反乱をおこした。
- ③ 西南戦争(\_\_\_\_\_年)…鹿児島県の士族らは、征韓論で政府を去った\_\_\_\_\_をおしたてて大きな反乱をおこした。しかし、政府軍によって鎮められ、以後は言論による反政府運動(\_\_\_\_\_ )が展開されていった。



## (2) 自由民権運動

- ① \_\_\_\_\_ 建白書  
西郷隆盛とともに征韓論を主張して政府を去っていた\_\_\_\_\_は、民選議院を開いて国民が政治に参加できるようにするべきだという意見書を提出した。
- ② 自由民権運動の展開  
板垣は、高知県に\_\_\_\_\_という政治結社をつくり自由民権運動を展開していった。自由民権の思想は富農や商工業者の間にも広まり、\_\_\_\_\_や\_\_\_\_\_らを中心に、演説会や新聞などで、国会の開設、憲法の制定、地租の軽減などを要求した。
- ③ \_\_\_\_\_ 同盟  
立志社を中心にして、全国的な組織である\_\_\_\_\_同盟がつけられた。さらに1880年には国会期成同盟が結成され、国会開設の請願を政府に提出した。
- ④ \_\_\_\_\_ の勅諭  
1881年北海道の政府の施設を薩摩藩出身者に安く払い下げようとしたところ国民の間に大きな非難がおこった。政府は、\_\_\_\_\_を政府から追放し、10年後に国会を開くという天皇の勅諭を出した。



# 自由民権運動

- ⑤ 政党の結成…板垣退助は、\_\_\_\_\_党を、大隈重信は\_\_\_\_\_党をつくり国会開設に備えた。政府が弾圧を強めると自由党の急進派は各地で激しい反対運動をおこした。1884年には大規模な\_\_\_\_\_がおこり、板垣退助は自由党を解散した。

## (3) 大日本帝国憲法と帝国議会

- ① 憲法制定の準備…政府は国会開設に備えて\_\_\_\_\_をヨーロッパに送り、憲法を研究させた。伊藤はおもに君主権の強い\_\_\_\_\_（プロイセン）の憲法を学んで帰国し、草案の作成を進めた。



- ② 国家制度の整備…1885年には\_\_\_\_\_制が廃止され、\_\_\_\_\_制度がつくられ、伊藤博文が最初の\_\_\_\_\_になった。また華族制度が整えられ、皇室の財産を安定させ地位を固めた。

- ③ \_\_\_\_\_の制定（\_\_\_\_\_年）

天皇が国民に与える形で発布され、日本はアジアで最初の立憲君主国となった。その内容は、

- (1) \_\_\_\_\_は主権を持ち、条約を結んだり\_\_\_\_\_を統率したりする。
- (2) 議会や内閣・裁判所は天皇を助けるものである。
- (3) 国民の権利は\_\_\_\_\_で制限できる。

第一条	大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第三条	天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
第十一条	天皇ハ陸海空軍ヲ統帥ス
第二十条	日本国民ハ法律ノ定ムル所ニ従ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

- ④ 教育勅語の発布…教育の基本とされたもので忠君愛国の道徳が示されていた。

- ⑤ 第1回総選挙…有権者は直接国税\_\_\_\_\_以上を納める\_\_\_\_\_歳以上の\_\_\_\_\_に限られ、国民の1.1%に過ぎなかった。選挙の結果は、野党が過半数を占めた。

- ⑥ 第1回帝国議会…選挙によって選出される\_\_\_\_\_と皇族・華族・多額納税者からなる\_\_\_\_\_との二院制であった。政府は軍隊の拡充を、野党は地租軽減を求め、対立した。